

プログラミング応用 第2回

河瀬 康志

2018 年 6 月 18 日

	日程	内容
第1回	6/11	ガイダンス・復習
第2回	6/18	文字列操作（文字列整形，パターンマッチ，正規表現） 平面幾何（線分の交差判定，点と直線の距離，凸包）
第3回	6/25	乱数（一様分布，正規分布への変換，乱数生成） 統計（データ処理，フィッティング）
第4回	7/2	計算量（オーダー表記） スタックとキュー（幅優先探索，深さ優先探索）
第5回	7/9	ソートアルゴリズム バックトラック（Nクイーン問題，数独）
第6回	7/23	動的計画法（ナップサック問題） 最短経路探索（Warshall-Floyd, Bellman-Ford, Dijkstra）
第7回	7/30	巡回セールスマン問題？
期末試験	8/6?	—

- Python 3.6.x
 - <https://conda.io/miniconda.html> からインストール
- PC: 備え付け持ち込みどちらでも. Windows, Mac, Linux 全て可
- 開発環境
 - Python IDLE:
 - Python と一緒にインストールされます
 - File/New File から新しいスクリプトファイルを作成
 - F5 を押すと実行
 - PyCharm: <https://www.jetbrains.com/pycharm/>
 - Atom: <https://atom.io>
 - サクラエディタ: <http://sakura-editor.sourceforge.net>
 - Emacs
 - vi/vim
 - Jupyter Notebook
 - Google Colaboratory <https://colab.research.google.com/>

演習問題の提出状況 + 期末試験

- 演習

- 途中まででも提出すれば部分点はつけます
- ただし、現状でどこまで実装できていて、
どういう場合にうまく動かないかをコメントでつけてください
- 相談推奨 (コピペ不可)

- 期末試験

- 持ち込み可，記述式を予定
- ただしインターネットの使用は不可

① 文字列操作

② 平面幾何

③ 演習

文字列の基本

```
>>> s='hoge'
>>> t="fuga"
>>> u='''hoge
... fuga
... piyo
... ''' # 複数行の文字列
>>> u
'hoge\nfuga\npiyo\n'
>>> s+t # 連結
'hogefuga'
>>> s*3 # 繰り返し
'hogehogehoge'
>>> len(s) # 長さ
4
>>> int('42') # 整数に変換
42
>>> str(42) # 文字列に変換
'42'
```

文字列のインデックス指定

```
>>> s='hoge' # 文字列はシングルクォートで囲んで表す
>>> s[2] # インデクシング
'g'
>>> s[-1] # インデクシング
'e'
>>> s[1:3] # スライシング
'og'
>>> s[:3] # 最初の 3 文字
'hog'
>>> s[2:] # 最初の 2 文字以外
'ge'
>>> s[::2] # 2 文字毎に取る
'hg'
>>> s[::-1] # -1 文字毎にとる (逆順)
'egoh'
```

文字列の分割

```
>>> '123 456 789'.split() # 文字列を空白で分割
['123', '456', '789']
>>> 'abaacaaabc'.split('aa') # 指定した文字列で分割
['ab', 'c', 'abc']
>>> 'abaacaaabc'.rsplit('aa') # rsplit は右から分割
['ab', 'ca', 'bc']
>>> 'abaacaaabc'.split('aa',1) # 分割数を指定
['ab', 'caaabc']
>>> 'abaacaaabc'.partition('aa') # 3 分割
('ab', 'aa', 'caaabc')
>>> 'hoge\nfuga\npiyo'.splitlines() # 行に分割
['hoge', 'fuga', 'piyo']
```


文字列の置換

```
>>> s='Hello world!'
>>> s.replace('Hello','Goodbye')
'Goodbye world!'
>>> s.replace('l','L',2)
'HeLLo world!'
>>> s.replace('l','') # 空文字にすれば削除もできる
'Heo word!'
>>> '  hoge fuga  '.strip() # 両端の空白を削除
'hoge fuga'
```

文字列の検索

```
>>> 'online' in 'nonlinear' # 含むかどうかの判定
True
>>> 'Hello world!'.startswith('hello') # 始まりの文字列か判定
False
>>> 'Hello world!'.endswith('world') # 終わりの文字列か判定
False
>>> 'abaabbab'.count('ab') # 何回出てくるか
3
>>> 'aaa'.count('aa') # 何回出てくるか
1
>>> 'abaabbab'.find('ba') # 指定した文字列の現れる場所 (左から探索)
1
>>> 'abaabbab'.rfind('ba') # 指定した文字列の現れる場所 (右から探索)
5
```

その他文字列操作

```
>>> 'Hoge123'.upper() # 大文字に変換, lower() は小文字に変換
'H0GE123'
>>> 'Hoge123'.swapcase() # 大文字と小文字を入れ替え
'h0GE123'
>>> 'this is a pen.'.capitalize() # 最初のみ大文字に
'This is a pen.'
>>> 'Hoge123'.ljust(10) # 左寄せ.  rjust, center だと右寄せ中央寄せ
'Hoge123   '
>>> '123'.zfill(10) # 0 埋め左寄せ
'0000000123'
>>> 'abc'.isalpha() # 文字列が全てアルファベットか
True
```

```
>>> '{0}, {1}, {2}, {0}'.format('a', 'b', 'c') # ポジション引数による  
アクセス  
'a, b, c, a'  
>>> '{} {}, {}'.format('a', 'b', 'c')  
'a, b, c'  
>>> '{hour}:{min}'.format(hour='14',min='52')  
'14:52'  
>>> '{0:<10}'.format('123') # 10 文字幅, 左寄せ  
'      123'  
>>> '{0:a>10}'.format('123') # 10 文字幅, 右寄せ, a で埋める  
'aaaaaaaa123'  
>>> '{:.2f}'.format(3.141592) # 小数点以下 2 桁  
'3.14'  
>>> '{:>10.3f}'.format(3.141592)  
'      3.142'
```

正規表現の基本

- 文字列の集合を一つの文字列で表現する方法の一つ
 - 例えば 'a[bc]d' という正規表現は {'abd', 'acd'} という集合を表す
- 指定された集合に属するかどうか（マッチするか）を判定する
- 以下の記号は特別な意味をもつ（メタ文字）

. ^ \$ [] * + ? | ()

- メタ文字を使いたいときはバックスラッシュを付けてエスケープする

\. \^ \\$ \[\] * \+ \? \| \(\)

- エディタでの検索，置換などでも使える
- より詳しくは <http://docs.python.jp/3/howto/regex.html> 参照

正規表現の例

東京工業大または東工大

東(京工業|工)大

東京〇〇大学 (間に 2 文字)

東京..大学

東京〇〇大学 (間は何文字でも)

東京.*大学

正規表現の例 2

郵便番号にマッチ

```
\d{3}-?\d{4}
```

携帯・PHS 番号にマッチ

```
0[789]0-?\d{4}-?\d{4}
```

メールアドレスに (ほぼ) マッチ

```
[a-zA-Z0-9.!#$%&'*/+=?^_`{|}~-]+@[a-zA-Z0-9-]+(?:\.[a-zA-Z0-9-]+)*
```

0 が偶数個か 3 の倍数個並んでいる

```
^((00)+|(000)+)$
```

単純なパターン

.	任意の一文字にマッチ
^	行の先頭にマッチ
\$	行の終端にマッチ
	左の文字列または右の文字列にマッチ. 「x yz」は「x」または「yz」にマッチ
[...]	括弧内に含まれる一文字にマッチ. 「[abc]」は「a」か「b」か「c」にマッチする. 「[a-z]」だと小文字のアルファベットにマッチ.
[^...]	括弧内に含まれない一文字にマッチ. 「[^a-z]」は小文字のアルファベット以外にマッチ.
*	直前の文字の 0 回以上の繰り返しにマッチ
+	直前の文字の 1 回以上の繰り返しにマッチ
{m,n}	直前の文字の m 回以上 n 回以下の繰り返しにマッチ
?	直前の文字の 0 回か 1 回の繰り返しにマッチ
(...)	グループ化をする. 「(ab)+」は「ab」の繰り返しにマッチ
\1	グループの 1 番目の中身とマッチ
\d	数字とマッチ. 「[0-9]」と同じ
\s	空白文字とマッチ. 「[\t\n\r\f\v]」と同じ
\w	英数文字下線とマッチ. 「[a-zA-Z0-9_]」と同じ

Python での使い方

```
>>> import re # 正規表現ライブラリを読み込み
>>> m = re.search('a.*b.*c', 'abracadabra') # マッチしなければ None
>>> m.group() # マッチした文字列
'abrac'
>>> m.start() # マッチの開始位置
0
>>> m.end() # マッチの終了位置
5
>>> m.span() # マッチ位置 (start,end) のタプル
(0,5)
>>> re.findall('[^a]+a', 'abracadabra') # マッチする部分文字列を全て取り出す
['bra', 'ca', 'da', 'bra']
>>> re.split('[ab]+', 'abracadabra') # マッチする部分で分割
['', 'r', 'c', 'd', 'r', '']
>>> re.sub('[^ab]', 'x', 'abracadabra') # 置換
'abxaxaxabxa'
>>> re.sub('(\d+)/(\d+)', '\\1 月\\2 日', '今日は 6/18 です')
'今日は 6 月 18 日です'
```

バックスラッシュ使用時の注意

- Python の文字列では「\」自体にエスケープが必要
- 「\」にマッチする正規表現「\\」を表す文字列は'\\\\'となる
- 'r' を文字列リテラルの先頭に置けば解決 (raw string)

```
>>> import re
>>> bool(re.search('\\\\section', '\\section'))
True
>>> bool(re.search(r'\\section', '\\section'))
True
```

- Σ : アルファベット (有限集合. $\{a, b, c\}, \{0, 1\}$ など)
- Σ^* : 文字列. アルファベット Σ を並べたもの.
- $L \subseteq \Sigma^*$: (形式) 言語. 許される文字列を集めたもの.

上ほど表現力が高い

- 帰納的可算言語: チューリングマシンによって表現できる言語
- 文脈依存言語: 線形拘束オートマトン
- 文脈自由言語: プッシュダウンオートマトン
- 正規言語: 正規表現 (または有限オートマトン)

アウトライン

① 文字列操作

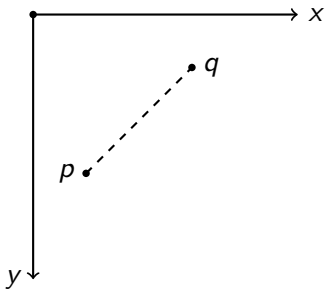
② 平面幾何

③ 演習

点の距離

点が x 座標と y 座標のペアで表されているとする

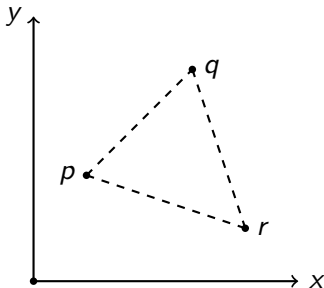
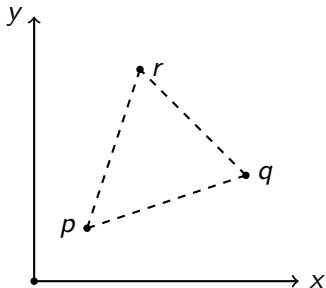
```
>>> def dist(p,q):  
...     return ((p[0]-q[0])**2+(p[1]-q[1])**2)**0.5  
...  
>>> s=(100,40)  
>>> t=(30,60)  
>>> dist(s,t)  
72.80109889280519
```



三角形の符号付き面積

点 p, q, r が反時計周りに並んでいるなら正, 時計回りなら負

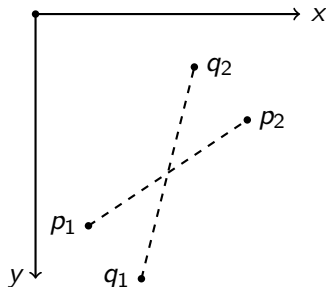
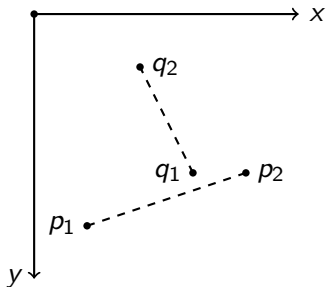
```
def area(p,q,r):  
    return ((q[0]-p[0])*(r[1]-p[1])-(r[0]-p[0])*(q[1]-p[1]))/2.0
```



線分の交差判定

直線 p_1p_2 に対して q_1 と q_2 が逆側かつ、
直線 q_1q_2 に対して p_1 と p_2 が逆側なら交差

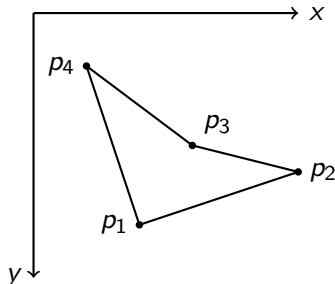
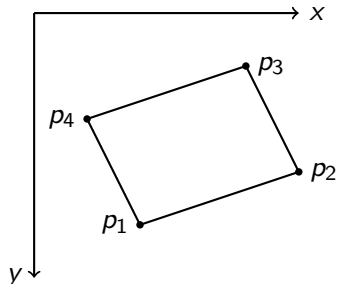
```
def intersect(p1,p2,q1,q2):  
    return (area(p1,p2,q1)*area(p1,p2,q2)<0) and \  
           (area(q1,q2,p1)*area(q1,q2,p2)<0)
```



多角形が凸であるかどうか

- 多角形は座標のペアのリストで表されるとする
- $p_i - p_{i+1} - p_{i+2}$ が全て同じ方向にあれば凸

```
def isconvex(ps):  
    n = len(ps)  
    a = area(ps[0],ps[1],ps[2])  
    for i in range(n):  
        if a*area(ps[i%n],ps[(i+1)%n],ps[(i+2)%n])<=0:  
            return False  
    return True
```



- tkinter の canvas を用いて描画
- 詳しくは

<http://infohost.nmt.edu/tcc/help/pubs/tkinter/web/canvas.html>

plot.py

```
import tkinter
root = tkinter.Tk()
canv = tkinter.Canvas(root, width = 800, height = 600)
canv.pack()

# ここに処理を書く
#

root.mainloop()
```

図形を描く

```
canv.create_line(x1,y1,x2,y2) # (x1,y1) と (x2,y2) を線で結ぶ
canv.create_line(x1,y1,x2,y2,x3,y3) # 点の数を増やして、順に線で結ぶ
canv.create_rectangle(x1,y1,x2,y2) # 長方形
canv.create_oval(x1,y1,x2,y2) # 楕円
canv.create_polygon(x1,y1,x2,y2,x3,y3,x4,y4) # 多角形
canv.create_text(x,y,text='hello') # (x,y) に 'hello' を表示

# fill = 色 を付けると塗りつぶし色を変えられる
# outline = 色 を付けると縁の色を変えられる
# width = 幅 を付けると縁の太さを変えられる
canv.create_rectangle(100,100,200,200,fill='red')
canv.create_oval(100,100,200,200,outline='#c0ffee',width=4.0)
```

- 色は '#rrggbb' で指定可能 (16 進数)
 - '#ffffff' は白
 - '#000000' は黒
 - '#00ffff' はシアン

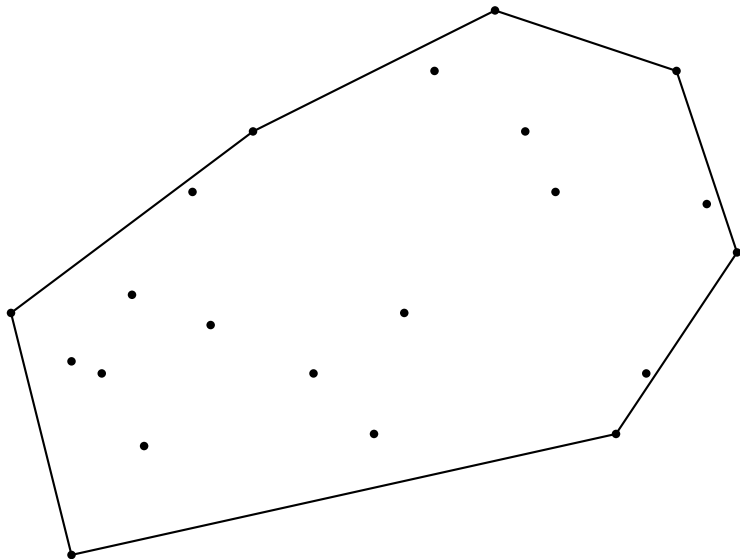
ランダムな点配置

```
import tkinter
import random
w,h,m = 800,600,50
root = tkinter.Tk()
canv = tkinter.Canvas(root, width = w, height = h)
canv.pack()

n=100
ps = [(random.uniform(m,w-m),random.uniform(m,h-m)) for i in range(n)]
for p in ps:
    canv.create_oval(p[0], p[1], p[0], p[1],width='10')

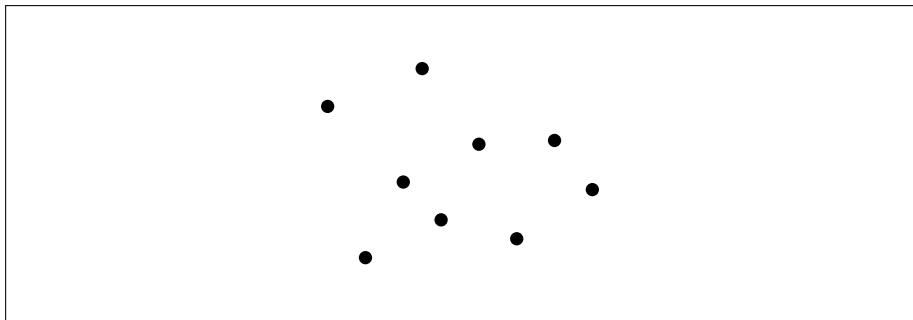
root.mainloop()
```





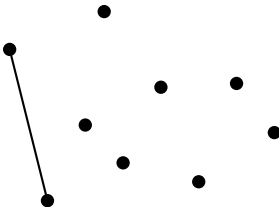
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



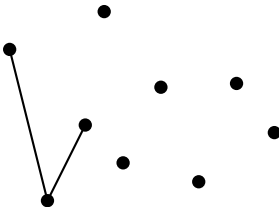
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



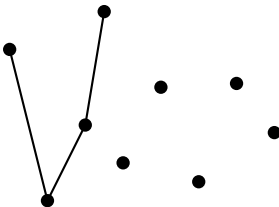
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



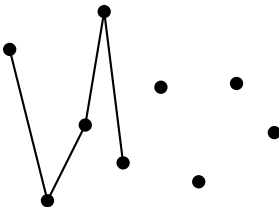
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



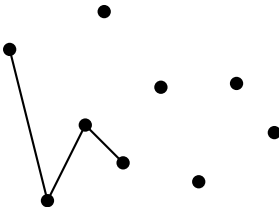
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



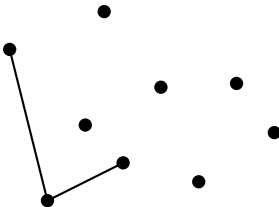
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



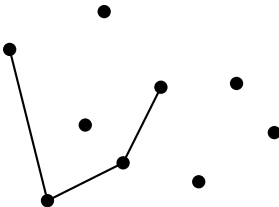
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



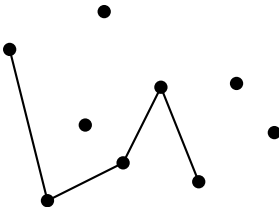
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



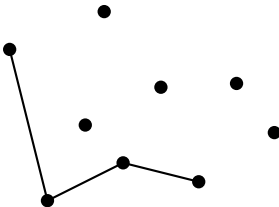
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



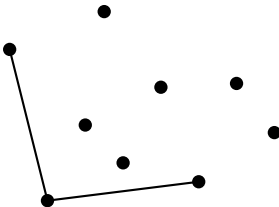
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



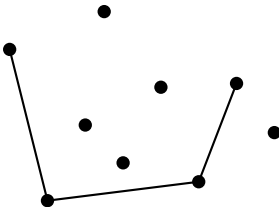
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



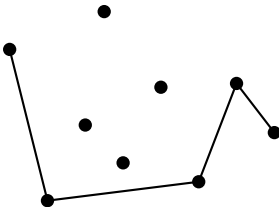
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



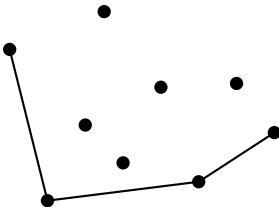
凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



凸包の計算方法

- 下側と上側に分けて考える
- 下側は x 座標の小さい頂点から走査
- 右回りでなくなったら頂点を削る



凸包を求める

ch.pyの一部

```
ps.sort()
lower = []
for p in ps:
    while len(lower)>=2 and area(lower[-2],lower[-1],p)<0:
        lower.pop()
    lower.append(p)

upper = []
for p in reversed(ps):
    while len(upper)>=2 and area(upper[-2],upper[-1],p)<0:
        upper.pop()
    upper.append(p)

ch = lower[1:]+upper[1:]
l=[x for p in ch for x in p]
canv.create_polygon(*l,fill='white',outline='black')
```

- 「lower[1:]」 lower の最初の要素を除いたリスト
- 「*[x for p in ch for x in p]」 リストを引数の形に展開

ボールがはねる ([ball.py](#))

```
import tkinter

root = tkinter.Tk()
canv = tkinter.Canvas(root, width = 800, height = 600)
canv.pack()

def move(ball,v):
    canv.move(ball,0,v) # ball を (0,v) だけ移動
    (x1,y1,x2,y2) = canv.coords(ball) # ball の座標を取得
    v += 0.1
    if y2>400:
        v*=-0.9 # 反発係数 0.9
        canv.move(ball,0,400-y2)
    root.after(20,move,ball,v)

r=20
ball = canv.create_oval(400-r,100-r,400+r,100+r,fill='red')
canv.create_rectangle(0,400,800,600,fill='black')
root.after(100,move,ball,0) # mainloop 開始後 100ms 後に move(ball,0) を呼び出す
root.mainloop()
```

- ① 文字列操作
- ② 平面幾何
- ③ 演習

解答プログラムをまとめたテキストファイルを作成して、OCW-iで提出

- ファイル名は practice2.txt
- 次回授業の開始時間が締め切り
(登録が間に合わないなどの場合は別途相談)
- ファイルの最初に学籍番号と名前を書く
- どの演習問題のプログラムかわかるように記述
- 出力結果もつける（描画する問題の場合はどのような結果が得られたか一言で説明）
- 途中までしかできなくても、どこまでできてどこができなかったかを書けば部分点を付けます
- おまけ問題をやる必要はなし（加点はあり）

問 1

'20180618' のような年月日の 8 桁からなる文字列 (yyyymmdd) を引数として、'2018/6/18' のような文字列を出力する関数を作成せよ。
逆に、年月日がそれぞれ整数 (year, month, day) として与えられた時、8 桁の文字列に変換する関数も作成せよ。 ($0 \leq \text{year} \leq 9999$ と仮定する)

問 2

http://yambi.jp/lecture/advanced_programming2018/kokoro.txt では、ルビが《》を用いて表されている。例えば、

私《わたくし》は

のように表記されている。kokoro.txt を読み込み、ルビを削除したファイル kokoro2.txt を出力するプログラムを作成せよ。

問 3

ランダムに線分を何本かつくり，どれとも交差していない線分は黒で，どれかと交差している線分は赤で表示せよ．

問 4

凸包のプログラムを，凸包の面積の表示もするように改造せよ．
面積の表示には `create_text` を用いよ．

問 5 (おまけ)

凸包の計算を 1 ステップずつ描画するようなアニメーションを作成せよ．